

# 東芝の喜劇 (上)

鎌田慧

兵器・原子カプラントの生産が主要な部門を占める東芝。府中工場はとりの府中刑務所以上に管理と規律が厳しい。ルポライター・鎌田慧が労組幹部の人権侵害の実態を報告する。

## ウルトラ兵器工場

「東芝の悲劇は、日本の会社の悲劇である。歴史、伝統、技術に、いさかでも自信過剰になったら、しらすしらす、陥落する道である。東芝は、まさに悲劇の会社であった」と書いたのは、三鬼陽之助で、

いまから三〇年前に出版された『東芝の悲劇』の一節である。

この本は、「メザシの朝食」での中に有名なミスター行革こと土光敏夫が、社長に就任して東芝再建に乗りだしたばかりのころ、彼に捧げた三鬼陽之助のオマージュ(賛辞)とでもいうべきものだが、このころの東芝労使の退廃の様相を見聞きすれば、悲劇というよりは、いまや喜劇というのがふさわしい。

東芝はマツダ・ランプを製作していた東京電気と重電メーカーの

芝浦製作所が、一九三九年に合併してつづられた会社で、前者がアメリカのGE(ゼネラル・エレクトリック)の子会社であり、後者が三井財閥に買収された会社として出発したが、その後、日本の戦局の拡大とともに、ウルトラ兵器工場として発展する。

社訓には、「我社ノ國家の使命ヲ深く認識シ協心戮力聖域献身以テ報國ノ誠ヲ致スベシ」とあり、古閑裕而作曲の社歌には、「皇國の光を世界にはなつ、亜細亜の栄を断乎と担う、われらの東京芝浦電機」と謳われた、産業報国の申し子とでもいふべき軍需工場だった。

戦後は、一転して京浜工業地帯での労働運動の牙城となった。田中英光の『少女』は、静岡県N機

関区の争議を舞台にした小説だが、ここでアジテーターとして颯爽と登場するのは、T電工からきた少女だった。「恋の東芝、浅野のギャング、カネと生命の鋼管会社」と川崎の三つの大工場は歌い離されていった。男の職場である浅野ドックや日本鋼管などちがって、東芝はベルトコンベアではたらく女性労働者のメッカでもあった。

が、四九年、社長に就任した石坂泰三は、二万八〇〇〇人の労働者のうち、四六〇〇人の人員整理を実施、大闘争の幕開けとなるはずだった。が、下山事件、三鷹事件、松川事件と松本清張描くところの「黒い霧事件」が発生、東芝労組は国労とともに大弾圧を受け、翌年のレッドパージによって、息の根を止められた形となる。

七〇年代のはじめ、わたしは川崎のルポライタージュを書くため東芝の女子労働者たちと会っていたのだが、このとき、女子寮を案内した労組の幹部は、「ここではゴーゴーとシンセイは「法度です」とふと洩らしたのだった。

東芝は、通信機やレーダーなどの兵器生産では重要な地位を占め、いまなお、戦前に引きつづいての軍需工場であり、原発工場である。そのこともあってか、戦後の成長とともに、労組は右傾化していた。

## 旭川事件

さて、このレポートは、東京・府中工場での現代版「世にも不思議な物語」(宇野浩二)である。

府中工場は、電気機関車からシステム制御装置までつくっている、一万五〇〇〇人の大工場である。世間をアツといわせた三億円事件は、府中刑務所の扉の前で発生し

たのだが、その隣にあるのが、東芝の府中工場。問題の三億円は、府中工場のボーナス資金だった。刑務所と工場が並んでいるのは、たまたまの偶然だが、この工場が刑務所以上の管理と規律を重んじているのは、けっして偶然ではない。府中工場では、いま奇妙な事件が進行している。ここで働く四人の労働者が、東京地裁八王子支部に東芝労組府中支部を相手として裁判を起こしたのである。訴えている内容は、「組合掲示板を使わせてほしい」との仮処分申請である。

府中支部では、ことし一月から、組合会館内の掲示板に、組合員の情報カードを掲示することにした。「中古自転車譲ります」とか「仔犬をあげます」とか、「探しています」などの情報を交換させるものだが、組合員の松野哲三さん(四五)など、四人の組合員は、掲示させない、と拒否された。理由は、二年前の役員選挙のときに、選挙妨害のヒラをまいた、その事情聴取にに応じていない、だから掲示板は使わせない、というものである。なんとケチな労組であろうか。

それで思い出したのだが、東芝労組と会社との癒着関係は、眼をそむけるほどの醜態まで、ひとつと、マスクミを賑わせた事件とし



一審勝利の日。右から3人が上野仁氏。東京地裁八王子支部玄関前にて(1993年2月1日)

ては、「旭川事件」がある。

これは、出世街道にあつた超エリート労務担当重役と労組の中央執行委員長という、労使の代表者が、どうしたことが、北海道旭川市の東芝の下請企業(東芝が株式の四〇パーセントを取得、社長は東芝からの天下り)に招待されて接待旅行、ゴルフと工場視察のあと、大雪山国立公園の観光ホテルに同宿した。これだけでも、立派なスキャンダルなのだが、問題になったのはそのことではない。

夜になって、コンパニオンをはべらせての宴会のあと、重役と中央執行委員長は、それぞれの部屋で買春の接待を受けた。それが発覚したのは、相手が一五歳の少女だったためで、あっせんしたスタッフのママなどは、児童福祉法と売春防止法違反で逮捕、下請企業の総務課長は同容疑で摘発、労使の代表者たちも参考人として旭川中央署に事情聴取される、という大事件となった。

買春接待した下請企業も非常識

## 情報カード事件

さて、「情報カード事件」の結末だが、組合幹部のヒジョーシキには、東京地裁八王子支部の裁判官も、あいた口がふさがらなかったようだった。審判の席上、裁判官はこういふた、という。「大人気ないですよ、委員長さん」「あなたがたのしていることはね

たとえばね、税金を滞納している人がいるとしますよ。そういう人にたいして、税務署が「税金を納めてください」と言うことはできませんよとね、電気やガス、水道までも止めることはできないのに、そうしているのと同じことなんですよ。税金と、電気代やガス代とは、全く別のものでは？

「私の言っていることの意味が判りますか？ 委員長さん」  
「子どものいじめと全くおなじことを、あなたがたは、しているわけですよ」  
「すぐに四人のカードを掲示すべきです」

五月二日(木) 昼休み、組合事務所へ。松野さん、正井さん、川名さん、私の四人。すぐに私たちは前田委員長に、私たちのカードをコミニケーションボードに掲示しない理由を聞くために近寄っていった。

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」  
「私この仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」  
「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」  
「上野 一般論どおりにはいかないですよ、この仕事は。三年間も同じものを作ってくれば、大体、スピードなんて人それぞれに決まってくるたぐいの仕事ですからね。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

企業と人権 カイシャで働く人たちへ

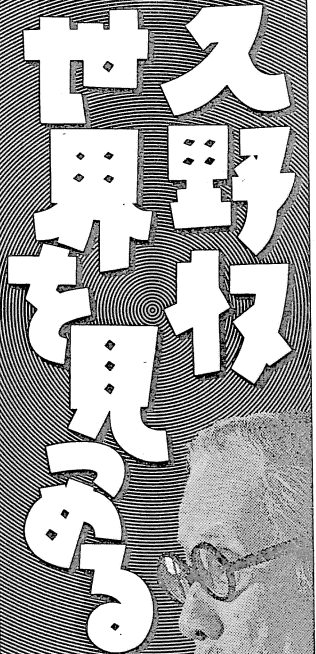
「前田 コミュニケーションボードのことは、おれは知らない。君らとは、用件が何であれ、一切話せない、我々には執行権があるのだ。」(子午線 九五年一月号所収)

「五月二日(木) 一六時三〇分〜一六時五八分。組合委員長が私のところへやってきた。前田(労組委員長) やあ、忙しいかね。」

「上野 私のこの仕事は、忙しいとかひまどとかいいうのは、全然関係ないんですよ。」

「前田 そんなことはないだろうよ。誰だって忙しければ忙しいの、ひまな時はひまな時の仕事の仕方というものはあるんだからよ。」

待望の最新刊



戦後50年。日本は世界は  
どうな回かへきか。...

自由国民社

# 東芝の音劇 (下)

鎌田慧

残業をこたわる社員を尾行して素行調査、労働条件にこだわる社員をチェック、東芝の秘密組織「扇会」。恐怖の労務管理を告発する。

## 金太郎アメ パンザイ

東芝の労務管理の異常さがよく知られるようになったのは、「東芝府中事件」によってである。これは、社外の読書サークルにはいったため、残業をしなくなった労働者が、毎日、職場で職制(下級管理職)からいじめられ、ついに裁判所に提訴、八年後の九〇年二月、「管理監督行為に行き過ぎがあった」との判決をひきだして勝訴した事件である。

裁判に訴えたのは、秋田県の大曲高校を卒業して入社した上野仁(当時二十五歳)さんである。前回にも登場したが、彼は入社後、府中工場高等職業訓練校に入所、二年後には、「技能五輪」の曲げ板金部門で、全国二位に入賞している。期待される労働者だった。が、向学心の強い彼は、次第に社会的な問題に関心をもつようになった。上野さんが入社して四年後、府

中市議会議員の選挙があった。府中工場からは、会社側と組合側から一名ずつ立候補したが、選挙運動は労使一体となって、二人の候補を推していた。

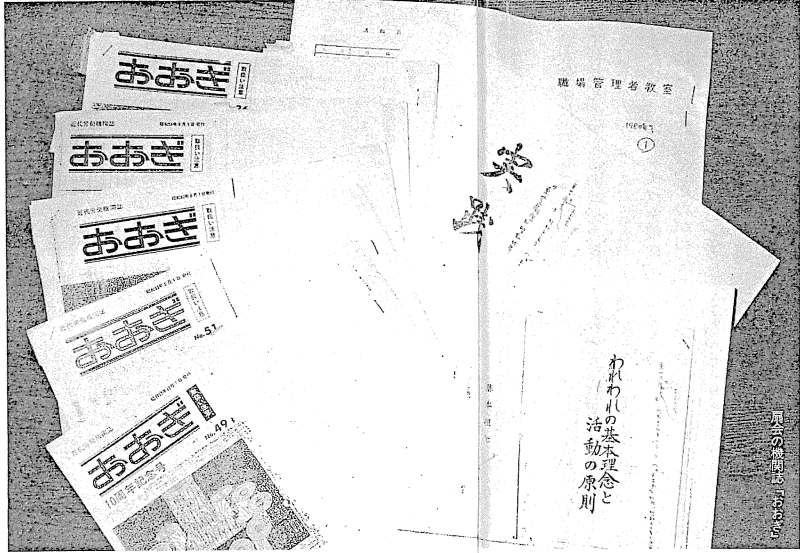
会社は、就業時間中にも、労働者に選挙運動をさせたりしていた。ふたりの労働者が、門前でそれを批判するビラをまきはじめた。上野さんはこのビラまき労働者と接触したため、たちまちしてアカ攻撃にさらされることになる。

その後、職制が彼に始末書、反省文を書くことを強要し、労組幹部が長時間の査問をおこなう。この庄迫に対抗するよびに、上野さ

んは「労働現場から」と題する工場日記を書きつけ、それが裁判での証拠として重要な役割をはたすのは、のちの話である。

まもなく、彼は仕事の中のいじめに耐えられず、休暇を申請したが、上司は暴力で応じたのだが、驚くほかない。上野さんは、目がまわり、手足がしびれ、鼻血をだして救急車ではこぼれる。精神科の医師は、「心因反応」と診断した。これからはじめとたたかう裁判となるのだが、そのころの職場の状態とは、つぎのようなものだった。

通路ですれちがう職制は、これ



内一部公然化」の時代に対処してある。

七四年四月、「一八〇〇名の仲間が連帯して全国組織を結成した」と「われわれの基本理念と活動の原則」に書かれている。扇会の文書には、産みの親は「本社勤労部の首脳部」と明記され、第一回、幹事長会議では、本社相賀課長現労務担当業務が、「偏向思想にたいして、団結して闘うイデオロギーを持つ集団としても我々は成長していく必要がある」と力説したとも書かれている。

この集団を秘密組織というのは、機関誌が「取扱い注意」とされていることにもよるが、大分工場の会員の俳句(作者名入り)に、  
人知れず ひっそりと咲く 扇

かな  
とあるのをみても、秘密組織員の自負をうかがうことができる。

扇会は、「勤労部が産みの親」であり、「良識派を母体とし、「会社としても全面的なバックアップを惜しむものではありません」組織として育成されたのだが、一〇年後には二五〇〇人の大組織となり、多くの労組幹部を輩出している。

現在、電機連合書記長の鈴木勝利氏は、「おおき」一〇周年記念号に「現在のリーダー像」と題する論文を寄稿し、関連会社への転籍を受け入れ難いとする労働者がいるのは、労使のリーダーに、グループ一体感が不足しているからだ」と指摘している。  
つまり、グループ一体感を強め

みよがしに直立不動の「敬礼」が、それぐらいで驚いてはいけない。「小集団活動」を統括するのは参謀本部で、部長が本部長、課長が隊長、製造長が下士官に任命され、指揮官会議や戦果報告会が実施されている。

「ZD活動戦略カード」には、「攻撃地点」「予想兵糧」などと記載され、「敵地占領」とか「橋頭堡」などが多用されている。好戦的である。社全体のスローガンは「アグレッシブでいこう」。

社外にむかって攻撃的であれば、当然、社内組織も不断に緊張を強制される。

労働担当課長が、「皆んな金太郎館になれ、それぞれの立場で社長も新人社員も言動が基本的には同じでなければならぬ」と演説したり、少女買春の「旭川事件」を惹き起した労務担当重役が、違法、脱法行為は禁物であるとして、公序良俗に反しない限り、あらゆる手段を駆使して」などの文

れば、労働者は配転、転籍にも応じるようになる、との提案である。とすると、労働担当重役と中央執行委員長が共闘した「旭川事件」とは、たんに労使癒着をしめすものではなく、労使と本社から派遣された下請企業社長との扇会を通じて「同志的結合」の具体例だったことに思い当たる。扇会の大きな集会では、本社勤労部長と中央執行委員長が演説しているのが、会報にも記録されている。

## 尾行、張り込みの 研修

機関誌「おおき」には、それぞれの会員の活動報告が掲載されている。

たとえば、「地方議員全員必勝を望む」の選挙報告であったり、配転拒否者にたいする説得であったり、労組の職場代議員を「健全派」で抑えるために「選挙区分」を変更して成果をあげたり、共産党員を職場の親睦会や旅行会等から「ボイコット」したり、行動不審な部下を尾行したりした体験報告である。ここでは、配転拒否者への対応と尾行の二例を紹介したい。

まず、配転を拒否したS君について、こう書かれている。  
「だが、このままS君の配転を中止する訳にはいかない。それは、

章を書いているのを読むと、なるほど、と思わざるを得ない。

## 「偏向思想」と闘う秘密組織

上野さんが入社する一年前の七四年四月、東芝では「扇会」の全国組織が結成されている。定期出版物の「おおき」は、「近代労使機関誌」と銘打たれ、タイトルの横には「取扱い注意」と毎号刷り込まれている。東芝労使の秘密組織である。

「それぞれの会員が属するグループを最小単位として、課、部、工場、会社、関連会社を含む当社グループ全体、そして地域社会から社会全体へと運動の輪を拡大発展させる」

この方針が書かれている。社内ばかりでなく、労使一体化した選挙によって、各地方議会で四一人の議員(八九年現在)を抱え、「議会活動、地域活動、営業活動等に尽力している」(議員団より)とか。

扇会は、六九年に「職場管理者教育」を修了した下級職制を中心に、各事業所にインフォーマルグループとして結成されていた。全国化を図られたのは、七三年秋のオイルショック以降の「摩擦と混乱」、「特定イデオロギー集団の企業

職場全体の秩序が乱れることにな  
るため、今後の配転へ時間をか  
けて説得を続けねばならない。  
私自身、今回のトラブルに対し、  
職場全体に『強い良識意識をつ  
くることが大切であると、痛切に  
反省している。それには日頃から  
管理監督者・リーダーおよび属会  
の会員が『良識ある体質づくり』  
を、押しつけられたものでなく、  
自ら進んで取り組み、職場内の雰  
囲気を作らねばならないというこ  
とである。

すなわち、今回のS君のような  
ケースが出た場合でも、本人自身  
が妻や親を説得し、配転に応じら  
ないという結論を出さねば職場にお  
られないというムードを作ることが  
大切である。

これからさらに厳しい企業実態  
の変化が予想されることであり、  
厳しい労務策に対し今回のような  
ケースが発生し、抗議闘争や法廷  
闘争などのような局面が生じない  
職場作りを努めたい。」

つきは、部下を尾行しても、尻  
尾をつかめないある職制の悩み。  
Bは二十二歳、独身、性格もお  
なく、仕事も熱心である。職  
場への不満もないよだが、各週  
木曜日となると仕事に関係なく私  
用があるとの事で、残業に協力して  
くれない。理由を聞いても話さず。

○企業内（職場）では、行動に空  
白部分が多く昼休み時、終業後の  
行動が見当つかない。  
○職場の問題、政治、社会、経済  
問題への関心と取り組みが強い。  
○昼休み、その他の時間を直接関  
係のない人との交際や、人間関係  
づくりなどに活用するようになる。  
○自主的な傾向が強くなり、職制  
に対する協調性が弱くなる。  
○職場の同僚や、特に若年者と新  
入社員の悩みごとや苦情に対する  
世話役活動を積極的にこなす。  
○若い人を対象としたサークル活  
動に非常に力を入れ、いろいろな  
インフォーマルグループをつくり、  
その中心となって面倒をよくみる。  
○就業規則等をよく知り、有給休  
暇、生理休暇の全面行使など、権  
利意識が強くなる。  
○職場での小さな苦情や職場要求  
が多くなり、不平、不満を組織化  
し、これを職場の代弁者として説  
得力ある発言を職場や職制にする  
ようになると共に、職場問題を不  
必要に拡大発展させる傾向が強  
くなる。

○朝のお茶くみ、掃除、その他の  
サービス労働に抵抗するようにな  
り、奉仕的な美德をなくす方向に  
力を入れる。  
○特別な理由もないのに、特定日  
の残業をしない。

尾行してみるが網にはかからない  
現状である。  
A・Bの行動から一応マークし  
ているが、きめ手を欠いている。  
今後どのような手を打つべきか、  
また担当監督者としてのあり方は  
いかにすべきかお聞かせ下さい。」

尾行、張り込みについて、研修  
会での質疑があった、との報告も  
ある。下級職制たちの熱烈的活動  
には、ゴクローサンというしか  
ないが、「明るい職場づくり」を標榜  
する扇会は、暗い情熱によって維  
持されているようだ。

○職制の言動をマークし、職制の  
いうことをよくメモにとる。  
○昇給時に、同僚の昇給を聞いて  
歩いたり、上司、会社の査定につ  
いて職制にいろいろ問ひ質す。  
○職場で作業の変更、その他を進  
めようとすると、いろいろな形で  
実施にブレーキをかける。  
○職場移転や配転では正当でない  
理由をいろいろあげて抵抗する。  
○態度が反抗的になり、社用品の  
取り扱いが粗雑になる。  
○雑談の中で自治、社会、政治を  
頻繁に出し、大変勉強していると  
いう印象を持たせる。

②組合活動での徴候判断のポイント  
○組合の集会、行事には熱心に参  
加し、皆の嫌がる世話役活動を買  
ってやる。  
○職場集会、その他で職場の苦情  
要求を代弁する発言が強くなる。  
○職場で解決できる問題でも、で  
きるだけ組合に持ち込み会社と組  
合との問題にするのに力を入れ  
る。

○入社して一、二年だが職場集会、  
その他でよく発言する。  
○組合役員（職場内、執行部）に  
なることに力を入れる。  
○賃金、その他の労働条件を意識  
的に他社と比較して出すようにな

る。  
○労働基準法、労災関係のことを  
よく知っており、本人の不注意に  
よる、ちょっとしたケガでも労災  
として取り上げるように主張する。  
○肩腕痛、腰痛病といった職業病  
問題に関心をもち、はらう。  
○職場の定員問題を執拗に追求し、  
不足分はやはり強く要求してくる。  
○従来の勤務体制、その他に変更  
を加えようとすると、労働条件の  
低下だと反対し、その実施に当  
ては、これに関連した諸手当の要  
求をうるさくだしてくる。

ほかに、寮の中の徴候とか、  
選挙時の動向とかで十数項目も列  
記されている。これでは、ミザル、  
キカザル、イワザルの三猿に徹す  
るしかない。労働者として、市民  
として、人間としての主張は、す  
べて問題者としてチェックされる。  
日本の企業の中に民主主義はな  
い、とわたしは長年にわたって主  
張してきたが、この「項目」は、  
企業が労働者の一挙手一投足を監  
視している貴重な証拠である。刑  
務所なみなどという、隣の府中  
刑務所から抗議がくるかもしれな  
い。

体制に迎合する投書が、掲載され  
ている。  
「時には私達の職場に政治を大量  
に持込んできて、たたき売をして  
いる馬鹿者がいる。キャバレーの  
ボーイよろしく無責任なピラをく  
はっている。又組合の職場集会に  
組合に無関係な人権という言葉  
を流してスター気取りになっている  
ものがある。  
このような気遣いに対して大多数  
の人達は小さな幸福を考えて白い  
目をみせる」  
排除の論理である。ちいさな権  
力者もまた恐ろしい。  
府中工場の労働者の話によれば、  
彼の身のまわりでも、心の病気の  
ひとつが珍しくなく、構内でも自転  
車の正面衝突を何回も目撃した  
という。前をみても、みえて  
いない精神状態のひとつが多いの  
です」とか。  
やはり、「東芝の悲劇」というべ  
きなのだろうか。この報告のタイ  
トルは「病める東芝」と改題した  
ほうがいいのかもれない。  
が、しかし、この病は、ひとり  
東芝だけのものではない。三鬼陽  
之助も書いている。  
「東芝の悲劇は、日本の会社の悲  
劇である」

「問題者」の  
チェック項目  
○職場での徴候判断のポイント

○組合の集会、行事には熱心に参  
加し、皆の嫌がる世話役活動を買  
ってやる。  
○職場集会、その他で職場の苦情  
要求を代弁する発言が強くなる。  
○職場で解決できる問題でも、で  
きるだけ組合に持ち込み会社と組  
合との問題にするのに力を入れ  
る。

○入社して一、二年だが職場集会、  
その他でよく発言する。  
○組合役員（職場内、執行部）に  
なることに力を入れる。  
○賃金、その他の労働条件を意識  
的に他社と比較して出すようにな

体制に迎合する投書が、掲載され  
ている。  
「時には私達の職場に政治を大量  
に持込んできて、たたき売をして  
いる馬鹿者がいる。キャバレーの  
ボーイよろしく無責任なピラをく  
はっている。又組合の職場集会に  
組合に無関係な人権という言葉  
を流してスター気取りになっている  
ものがある。  
このような気遣いに対して大多数  
の人達は小さな幸福を考えて白い  
目をみせる」  
排除の論理である。ちいさな権  
力者もまた恐ろしい。  
府中工場の労働者の話によれば、  
彼の身のまわりでも、心の病気の  
ひとつが珍しくなく、構内でも自転  
車の正面衝突を何回も目撃した  
という。前をみても、みえて  
いない精神状態のひとつが多いの  
です」とか。  
やはり、「東芝の悲劇」というべ  
きなのだろうか。この報告のタイ  
トルは「病める東芝」と改題した  
ほうがいいのかもれない。  
が、しかし、この病は、ひとり  
東芝だけのものではない。三鬼陽  
之助も書いている。  
「東芝の悲劇は、日本の会社の悲  
劇である」



東芝本社前に掲げられた横断幕(東京・浜松町)

○職場での徴候判断のポイント